

1 題材名

『えっ!? まくはりにんじん誕生とおいしさのひみつに ズームイン!!』(3年生 地理的学習)
～まくはりにんじんを生み出した農家の人の工夫や努力を知ろう～

2 授業のねらい

- ①千葉市武石町の「にんじん名人」に実際に聞き取ったお話やその他の資料を活用しながら、農家の人々の工夫や努力を話し合ったり、考えたりして、千葉市の代表的な農産物である幕張にんじんについての理解を深めます。
- ②品種改良によって生まれた千葉市の「幕張三寸」「春夏にんじん」などの新しい品種が、どのように育てられてきたのか考えます。

3 指導計画上の位置付け

- ◇3年社会科指導計画 2ー2—①「にんじんを育てる」と関連した学習です。
- ◇3年副読本 P40～P43「にんじん作りの1年間・にんじん作りのくふう」と関連する1時間の学習で、農家の人の工夫や努力を考えるというねらいを持った学習として行います。

4 予想される授業の流れと指導資料

- ①学校給食の献立の中に、にんじんがどれだけ含まれているか調べ、日頃から児童が給食でにんじんを多く食べている事実を確認して、にんじんが千葉市の代表的農産物であることを紹介します。
 - ②千葉市のにんじんは「幕張にんじん」と呼ばれ、約15cm(五寸の春夏にんじん)であることを知り、その他にもにんじんには多くの種類(大きさ・長さ・色)があることを様々なにんじんの実物を観察して、幕張にんじんは他のにんじんと比べてどのような特徴があるか疑問を持ちます。
 - ③幕張にんじんの特徴である「柔らかくて甘い・冬に強い」にんじんが、なぜ生まれたのかについて武石町のにんじん名人のお話や、にんじん作りの写真や資料をヒントにして、千葉市の農家の人の工夫や努力について考えて、カードに書き、話し合います。
- (例) ◆「東京の江戸川から伝えられたにんじんの育て方を、地域の人が協力して広めていったのか。」
◆「にんじんは気温が低くても育つ野菜なので、冬に種まきして春に取り入れる春にんじんを考え出したのか。」
◆「にんじんは太陽に当てると色が悪くなるので、暗い夜中から初めて、朝のうちに取り入れを終えるような苦労があったのだね。とても大変だね。」
- ④明治から戦後にかけて千葉市で生まれた「幕張三寸」「春夏にんじん」の品種を紹介して、千葉市ではにんじん作りどのように発展してきたのか資料から読み取り、千葉市のにんじんに対して親しみが持てるように指導します。

<活用する資料>

- ◎「千葉県野菜園芸発達史」(昭和60年千葉県発行)
- ◎「幕張にんじんづくり方」(千葉市農政部)
- ◎「生産者出張授業資料集(春夏にんじん)」(千葉市農政部農政課作成資料)
- ◎千葉市農業概要 令和4年度版 (千葉市農政部農政課発行)

5 指導上の留意点、その他

- ◇品種改良で生まれた「幕張にんじん」という千葉市代表的な農産物への理解を高めながら、児童に千葉市のにんじんに対して、親しみの気持ちが持てるように指導したいと思います。
- ◇博物館で取材して聞いた「にんじん名人」のお話や、幕張にんじんが生まれた歴史的経過の資料から農家の人の工夫や努力を学び、幕張にんじんに対する興味関心を高めていきたいと思います。